

平成 23 年度 特別推薦入試試験問題（第二部 商経学科）解答例

問 1（50 点）

【採点のポイント】

- ・ 筆者が、フランスと比較して、アメリカにおける画一化の傾向に対して批判的な意向を持っていると認識していること。
- ・ フランス社会の例、アメリカにおける例を、課題文から読み取れていること。
- ・ 一定の長さで論理的な文章が書けていること。

【解答例】

ラッセルは、フランスと比較して、アメリカ社会はより画一化が進んでいることを批判して、「誤った考えのデモクラシー」という表現をしていると考える。フランスでは医師、法律家などの職業によってそれぞれの伝統や標準も異なるが、そうした違いが人間の優劣に関係することにはならず、他の人と違うということは尊重される。

しかしアメリカにおいては、民主主義とはすべての人々が同様になることを命令するものであるとして、より画一的なものとして認識されている。他の人と違うことが、人間の優劣につながるものとして考えられている。ラッセルはアメリカにおけるこうした点をフランス社会と比較して、「誤った考えのデモクラシー」と呼んでいる。

問 2（50 点）

【採点のポイント】

- ・ オーケストラは社会を、バイオリンは個人を暗喩していることを理解していること。
- ・ 筆者が多様性を重視していることを認識していること。
- ・ 一定の長さで論理的な文章が書けていること。

【解答例】

通常オーケストラは、多くの弦楽器や金管楽器、打楽器などから構成される。楽器の形も、演奏の仕方も、数も異なる楽器が集まることによって、良い音楽が奏でられる。しかし、バイオリンだけでは、単調な音楽しか演奏することはできない。楽器の多様性こそがオーケストラにとって重要である。多様な楽器が存在することによって、逆に一つ一つの楽器は個性を発揮することが可能になる。

筆者は、バイオリンだけからなるオーケストラの例を出すことにより、画一化した社会、人々の個性が認められない社会のマイナス面を表現している。画一化が進めば活力も失われる。な

ぜなら、社会とはさまざまな機関がさまざまな作用を営んでいる一つの有機体だからである。画一化はそれを機能不全にする。同時に人々の個性も発揮することのできない社会であると考えられる。

多様性こそが豊かさなのであるということを主張したために、筆者は「オーケストラはバイオリンだけで構成すべきだと定めたようなものである」といった比喻を使用していると考え